

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人帯広畜産大学

1 全体評価

帯広畜産大学の基本的な目標は、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝地域において、生命、食料、環境をテーマに「農学」「畜産科学」「獣医学」に関する教育研究を推進し、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じて地域及び国際社会に貢献することである。第3期中期目標期間においては、獣医学分野と農畜産学分野を融合した教育研究体制、国際通用力を持つ教育課程及び食の安全確保のための教育システムを保有する我が国唯一の国立農学系単科大学として、グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成することを目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、「グローバルアグロメディシン研究センター」を中心に、学術交流協定校との教育研究交流を推進するとともに、食品安全に関する国際基準適応の学内実習施設を1施設から5施設に増加させるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 欧州獣医学教育認証の平成32年度取得を目指して、欧州獣医学教育認証校であるヘルシンキ大学（フィンランド）の専門家による訪問調査のトライアルの実施や、臨床技能実習室（スキルスラボ）の設置による学生の臨床スキルの向上、特定農家等を対象とした夜間・緊急診療の開始等を実施している。（ユニット「日本の獣医学教育改革の推進」に関する取組）
- 食と動物の国際教育研究拠点形成の推進に向け、畜産フィールド科学センターの搾乳施設及びと畜・解体施設において食品安全管理システム認証（ISO22000）を取得するとともに、原虫病研究センター及び動物・食品検査診断センターでは、食品・生物系検査における試験所能力の国際認証（ISO17025）を取得している。また、グローバルアグロメディシン研究センターにおいて、コーネル大学（米国）及びウィスコンシン大学（米国）との研究者の派遣・招へいによる国際共同研究の実施等を行った結果、平成28年度の国際共著率は48.5%となっている。（ユニット「食と動物の国際教育研究拠点形成の推進」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載14事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 電気料金の削減

電力契約の見直しを行い、一定量を超過した部分の使用電力について、従来の電力会社とは異なる相手先から電力供給を受ける併用電力契約を締結しているほか、廊下や天井部分のLED照明への更新等を推進した結果、電気料金は対前年度比1,272万円減となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 海外へ向けた研究内容の情報発信

大学の特色ある研究内容等をわかりやすく紹介するための「特色ある研究の紹介」を英文ウェブサイトに掲載しているほか、大学に関係のある研究員や卒業した留学生等400名以上に対し、メールマガジンとしてその内容を周知するなど、研究内容の国際的な情報発信に努めている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 食品安全教育の推進に向けた国際認証の取得

学内実習施設を活用して、国内外の企業等が求める国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材育成を推進するために、食品安全管理システム認証（ISO22000）や食品・生物系検査における試験所能力の国際認証（ISO17025）といった国際基準適応の学内実習施設を、1施設から5施設に増加させている。

○ 世界各国の大学との国際共同研究等の実施

国際共同研究推進施設である「グローバルアグロメディシン研究センター」を中心に、学術交流協定校であるコーネル大学（米国）及びウィスコンシン大学（米国）との教育研究交流を推進しており、コーネル大学が開催する教育プログラムへの学生の派遣や、同センターの教員体制の充実等を図った結果、平成28年度における国際共著率が48.5%となるなど、国際的な教育研究活動を展開している。

○ 「こう疫」対策に関する研究の推進

原虫病研究センターでは、馬の繁殖障害やへい死などを引き起こす再興感染症として多くの地域で問題となっている「こう疫」に係るワクチン開発、治療薬探索及び簡易迅速診断法を開発するための研究として、こう疫の病原体となるこう疫トリパノソーマを感染した馬の生殖器から実験動物を介さず培養順化させることに世界で初めて成功している。